第1章　本ガイドラインのねらいと構成

1．ねらい（まちなみ景観形成の必要性）

大規模建築物等は景観に大きな影響を与えます。このため、『岸和田市景観条例』に基づき、岸和田らしい景観を保全し、創生し、未来へ継承することのできる快適な環境と住みよい文化的で潤いのある美しいまちの実現をめざし、大規模建築物等が先導的な役割を果たすことが必要です。

したがって、大規模建築物等の建設及び開発行為に携わる設計者や事業者などの関係者が、景観形成に努める際に、この誘導基準を活用して頂きたいと思います。

2．構成

このガイドラインは、「景観特性」、「基本景観区別等の基本方針」、「大規模建築物等の誘導基準」から構成されています。大規模建築物等を計画するときは、下記の流れに従って計画して下さい。

景 観 特 性

自然特性、歴史特性、生活特性、空間特性の４つの視点から岸和田市の景観の特性を示しています。

ここでは、岸和田市や計画地の景観特性を理解してください。設計にあたって、計画地とその周辺の景観特性を詳細に分析、把握して下さい。

▼

基本景観区別等の基本方針

市域を景観特性によって６つの景観区と７つの基本景観軸、12の景観配慮地区を設定しています。それぞれの地区に応じた景観形成のあり方を示しています。

ここでは、設計にあたって敷地の属する景観区等を確認し、該当する景観区等で示されている基本方針に留意して下さい。

▼

大規模建築物等の誘導基準

誘導基準は、岸和田らしい景観形成を図るための基準です。「景観形成の基本方針」、「誘導基準」及び具体的な手がかりとしての「指針」を示しています。設計するときにこれらを配慮、参考にして下さい。

第２章　景観特性

１．景観から見た岸和田らしさ

岸和田城は岸和田市のシンボルであり、市民の心の拠り所、原風景となっています。歴史的にみると岸和田市は城下町として発展し、府内で３番目に市制を施行するなど、泉南地域の経済・文化・行政の中心的役割を果たしてきました。本市は現在も山なみや丘陵部の緑、ため池などの自然に恵まれ、平地部には中低層の建築物が広がっています。また、だんじり祭に象徴されるような地域社会のまとまりや活力が感じられ、歴史的まちなみ景観が比較的よく残っていると言えます。

景観的にみて「～らしさ」は一般的に自然地形と歴史的建造物によって醸し出されていると言われています。

自然地形からみると、和泉葛城山が市域の南側に緑のスクリーンとして拡がり、神於山がランドマークとなっています。また、海・平地・丘陵・山と地形に変化があり、特に丘陵部はフィンガー状に広がったヒダの多い景観となっています。平地部や丘陵部には数多くのため池があり、なかでも久米田池は府内で最大の満水面積を有し、貴重な広がりのあるオープンスペースになっています。

歴史的建造物としては、城周辺に五風荘や自泉会館など近代名建築が集中しています。一方で、紀州街道沿いには伝統的様式の町家のまちなみが続いています。

２．景観特性

自然・歴史・生活・空間の４つの視点から景観特性を明確にしました。

自然特性

- 南側に和泉山系が存在し、人々は自然に山の景色が目に入る生活を送っている。
- ランドマークとして神於山が存在する。
- 海、平地、丘、山と地形の変化に富んでいる。
- ため池（久米田池ほか）が多い。
- 南北に細長く市域が広がっている。

歴史特性

- 岸和田城を中心とした城下町として発展。
- 古くから大阪と和歌山を結ぶ紀州街道の要所。
- 街道沿いを中心として歴史的な景観やまちなみが残っている。
- 市域は城下町、漁村、門前町、農村集落を起因とした町が集まったもの。

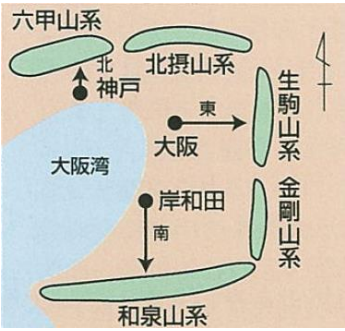
生活特性

- 300 年の伝統を誇るだんじり祭に代表される。一年を刻むリズムとなっている。
- だんじりを核とした地域コミュニティの形成。
- 岸和田育ちの人が多く、定住志向が強い。

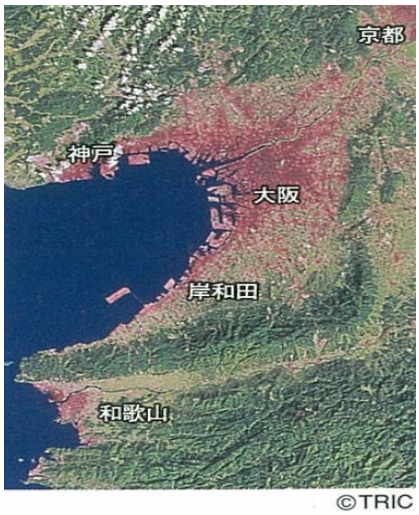
空間特性

- 海岸線に並行に延びる都市軸。
- 建築は全般的に中低層のものが多い。
- 道路は関西国際空港の開港とともに、広域幹線道路を主とした整備が進んだ。

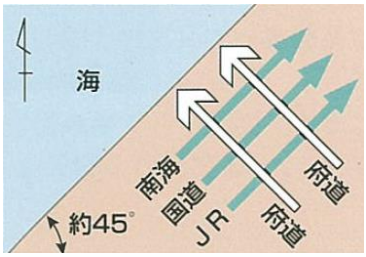
山が座標軸



- 南側に山が存在し山の景色が目に入る生活になるため、海より山の影響が強い。

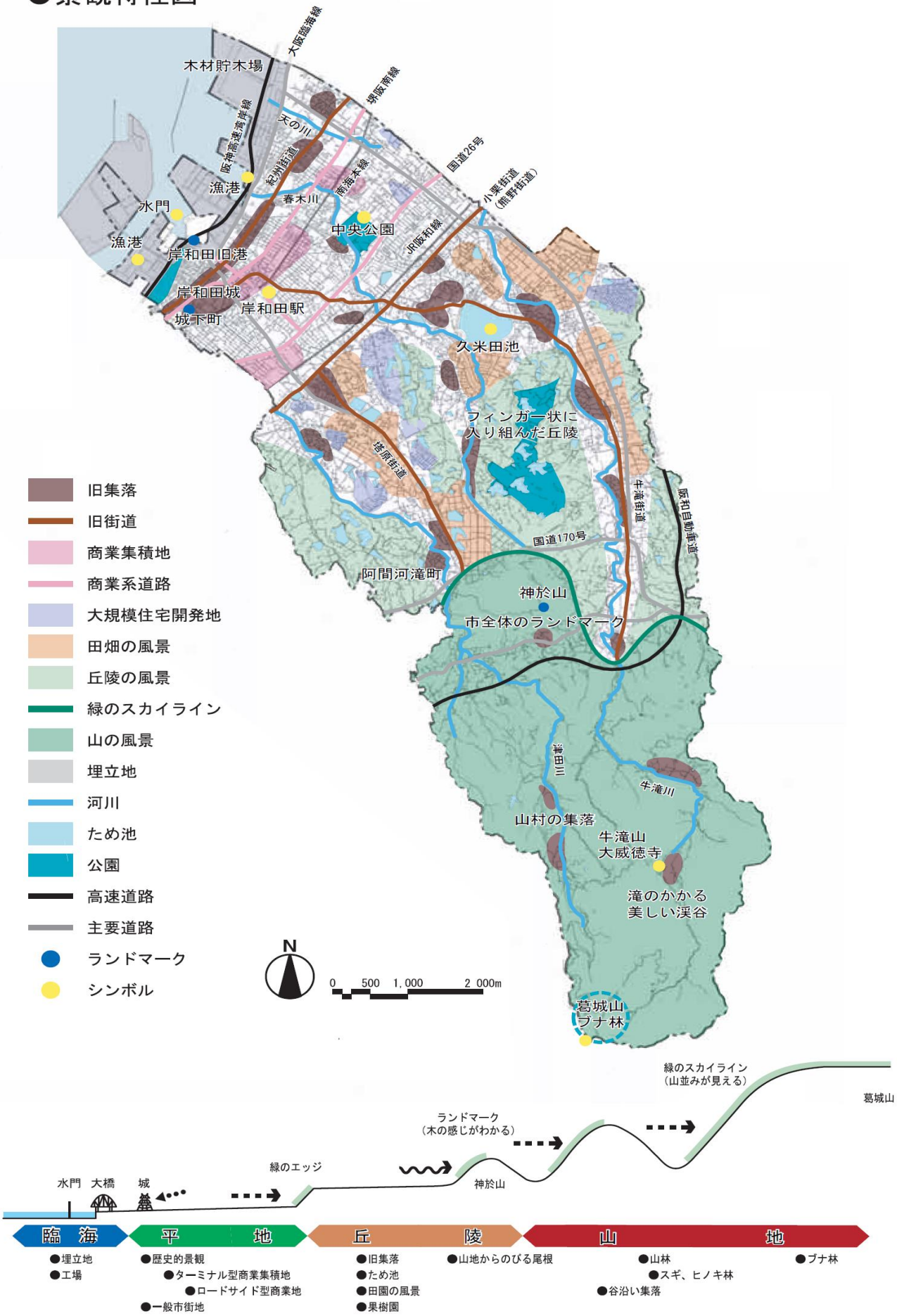


45°の軸線のまち



- 約 45°の海岸線が鉄道や道路の軸を規定。
  その為、方位で表現しにくい。海側、山側、大阪方面、和歌山方面という表現が理解されやすい。

●景観特性図


木材貯木場
大阪臨海線
堺阪南線
天の川
阪神高速湾岸線
紀州街道
国道26号
漁港
南海本線
小栗街道
（熊野街道）
春木川
水門
中央公園
JR阪和線
漁港
岸和田旧港
岸和田城
岸和田駅
城下町
久米田池
フィンガー状に
入り組んだ丘陵
塔原街道
牛滝街道
阪和自動車道
国道170号
阿間河滝町
神於山
市全体のランドマーク
旧集落
旧街道
商業集積地
商業系道路
大規模住宅開発地
田畑の風景
丘陵の風景
緑のスカイライン
山の風景
埋立地
河川
ため池
公園
高速道路
主要道路
ランドマーク
シンボル
N
0 500 1,000 2,000m
津田川
牛滝川
山村の集落
牛滝山
大威徳寺
滝のかかる
美しい渓谷
葛城山
ブナ林
緑のスカイライン
（山並みが見える）
葛城山
ランドマーク
（木の感じがわかる）
緑のエッジ
神於山
水門
大橋
城
臨　海
平　地
丘　陵
山　地
●埋立地
●工場
●歴史的景観
●ターミナル型商業集積地
●ロードサイド型商業地
●一般市街地
●旧集落
●ため池
●田園の風景
●果樹園
●山地からのびる尾根
●山林
●スギ、ヒノキ林
●谷沿い集落
●ブナ林

①自然特性

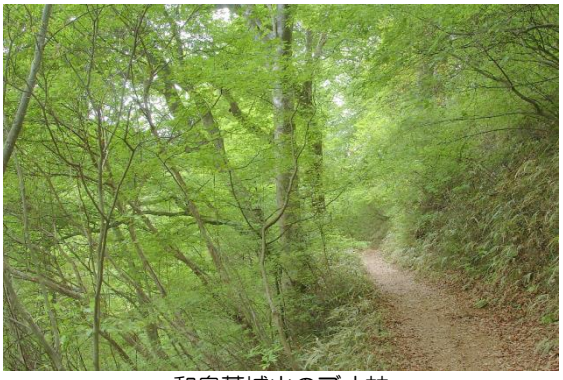
市域の地形は、南東から山地、丘陵、平地と大きく分けて３つの部分からなっており、大阪湾に臨む臨海部は埋立地となっています。

山地部は樹木に覆われた起伏の多い山々が連なっています。神於山、鍋山から丘陵部が西へと続き、その谷筋に牛滝川、春木川、津田川が流れています。丘陵部の北端地域には、府内で最大の満水面積45.6ha、周囲約 2.6km の久米田池を始め数多くのため池が分布しており、農村地域の特徴的な景観要素となっています。さらに北西に向かって平地部が続いています。

臨海部は現在埋め立てられており、自然海岸は残されていませんが、浜工業公園の一部に当時をしのばせる松林が現存しています。

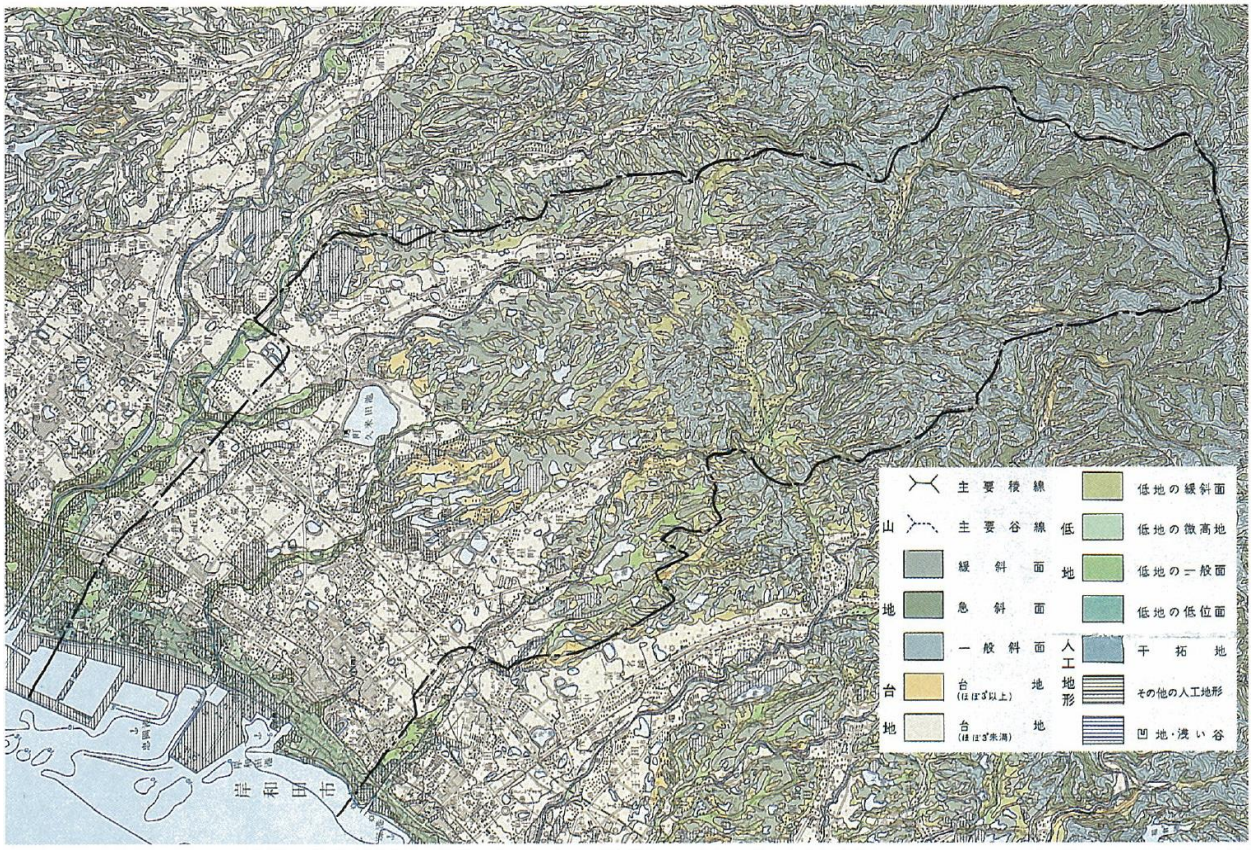
山地部には、植物、昆虫等が数多くみられ、和泉葛城山山頂付近のブナ林は、大正 12(1923)年、国の天然記念物に指定された貴重な自然環境を有しています。また、この付近を含む和泉山脈は、平成８年に金剛生駒紀泉国定公園に指定されました。

浜工業公園の松林



和泉葛城山のブナ林

地形特性図

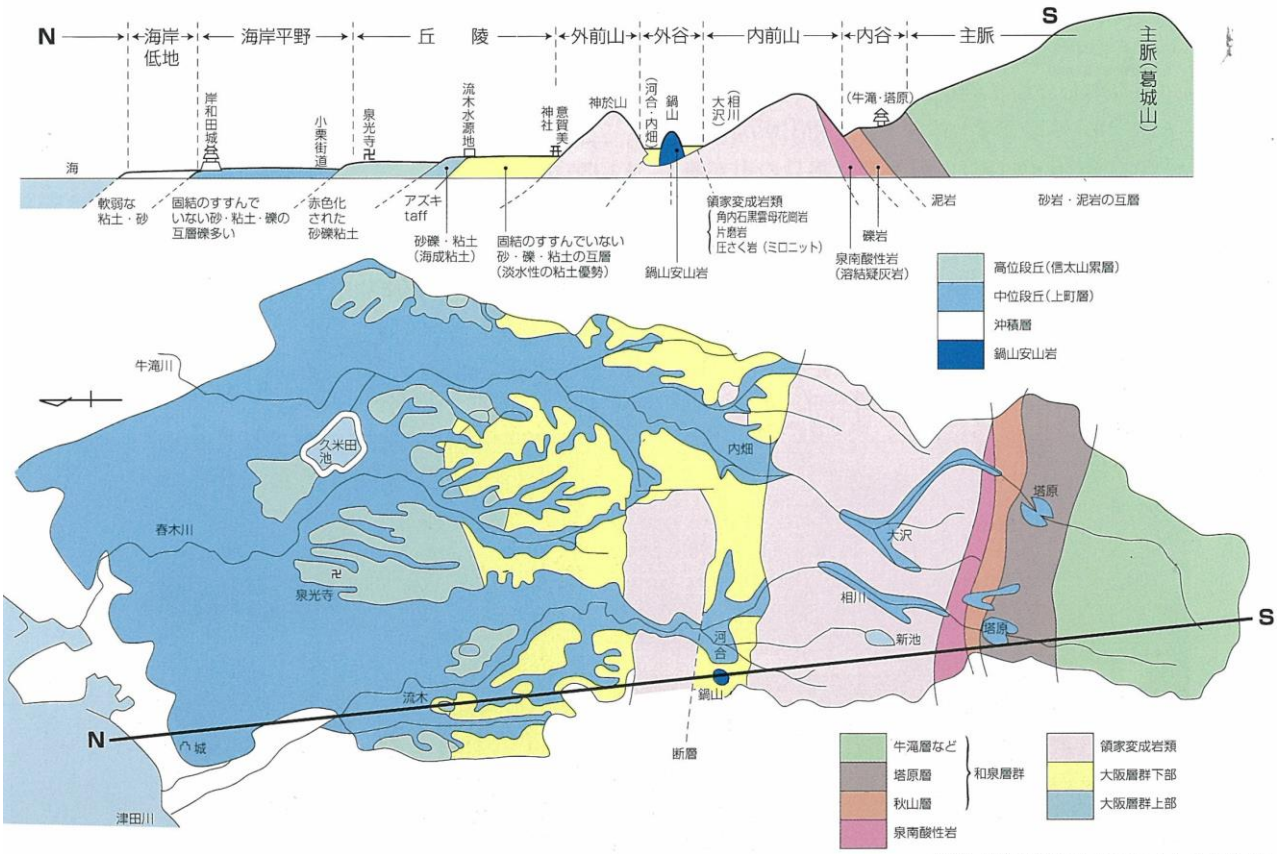


この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1土地条件図を複製したものである。（承認番号　平8近複、第149号）

丘陵部は大阪層群とよばれる鮮新世から更新世の地層でできています。粘土、砂、れきなどからなり、その多くは果樹など畑作として利用されています。

平地部は段丘層（後期更新世の地層）と完新世(約１万年以降)の地層でできており、岸和田城は段丘層の突端に築かれています。

地質図



出典「岸和田の土と草と人」小垣廣次

②歴史特性

およそ２万年前の後期旧石器時代から本市域には人々が生活していました。その後、土器製作技法をもった縄文時代の人々が暮らした春木八幡山遺跡や山ノ内遺跡が確認されています。稲作を始めた弥生時代の人々は各地にムラを営みました。その代表的な遺跡には下池田遺跡、栄の池遺跡、畑遺跡、尾生（おぶ）遺跡があります。

４世紀中頃から５世紀にかけて久米田周辺に古墳が多く造られました。市域最大の古墳は約 200m を有する摩湯山（まゆやま）古墳で４世紀後半に築造されたと考えられ、国の史跡に指定されています。８世紀になると古墳の築造に代わって寺院の建立が始まり、僧行基の伝説を残す久米田寺、神於寺（こうのでら）、大威徳寺（だいいとくじ）は奈良・平安時代から今に続く名刹（めいさつ）です。

中世になって、当時岸の地とよばれた海岸寄りの一隅に、南朝に仕えた和田氏の一族が居を構えたのが岸和田の地名の起こりとなったと伝えられています。

天正年間、秀吉は紀州根来の衆徒や雑賀の門徒に備えて、岸和田に中村氏を配しました。岸和田城下町はこの頃形づくられました。以降小出氏３代、松平氏２代の後、明治維新まで岡部氏 13 代の在城が続きました。小出氏によって天守閣が創建され、松平氏は海辺の防衛のため浜辺石垣を築き、岡部氏は南方に備えて津田川堤防の改築に行いました。岸和田城とその周辺は町・浜・村に分かれ、町と農漁村が一体となった特色ある城下町が形成されたのです。

文政 10(1827)年、城の天守は落雷で焼失しましたが、城下町は大火も戦災もなく、歴史的な面影を今なお多く残しています。

明治維新ののち、明治２(1869)年に岸和田藩も版籍を奉還しました。その後、明治５年には岸和田は堺県下に入り、明治 14 年には大阪府内に編入されました。

大正から昭和初期にかけては、南欧風の駅舎、十六軒長屋、マンサード長屋、スパニッシュ風建築物等の近代建築物が建築され、その個性的な姿は、今もなお見ることができます。

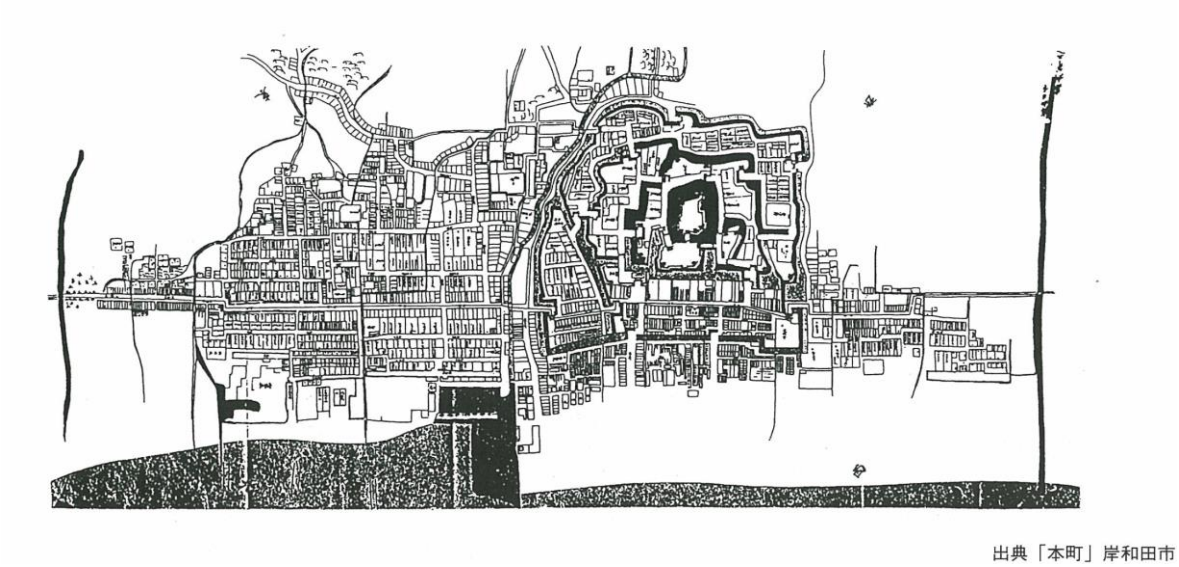
蛸地蔵駅舎

自泉会館

1886年の岸和田

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万分の1地形図を複製したものである。(承認番号　平8近複、第149号)

幕末城下町絵図（高林家蔵）



出典「本町」岸和田市

③生活特性

岸和田市民には、強い定住志向があるといわれています。これは利便性、環境の質、文化性、地域コミュニティの充実だけではなく、最も大きな影響を与えているのが「だんじり祭」の存在であると考えられています。

だんじり祭は、元禄 16(1703)年に時の岸和田城主・岡部長泰（３代藩主）が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請（かんじょう）し、五穀豊穣（ごこくほうじょう）を祈願して行なった稲荷祭がその始まりと伝えられており、約 300 年の伝統があり、日本一のだんじりの台数を誇っています。

祭りのための町の団結や全員が参加できるシステムと、子どもからお年寄りまで皆の役割があり、だんじり祭を核とした地域コミュニティが形成されています。子どもの時から「だんじり」を曳（ひ）き、町をかけ廻って、町を知り、町に愛着を感じ、町から離れられなくなります。祭りは一年を刻むリズムの節となります。町内にはだんじり小屋があり、乾燥を防ぐため小池に「こま（車輪）」を浸けている風景は、岸和田市の風物詩となっています。

山間部では塔原（とのはら）の葛城おどりが雨乞いの祭りとして知られており、毎年８月 14 日に塔原町弥勒寺（みろくじ）境内で行われ、府の無形民俗文化財となっています。また、市指定無形文化財である土生鼓（はぶこ）踊りも毎年８月 14 日から 16 日までの間に行われ、岸和田市ならではの祭りも見られます。

市街地に接する近郊地区での民俗風習は、農業集落部分にしか残っておらず、水利・宮座・祭礼・墓制等を通じ、つながりを保っています。

また、庶民の生活をつづった「岸和田のむかし話」を地図上にプロットすると、本市域の３つの水系（津田川、轟川・天の川、牛滝川）や城周辺に、数多くの昔話があり人々の息吹やそのたたずまいを伝えてくれます。

だんじり会館

葛城おどり

●市立小学校の校歌となっている景観資源

【ちぬの海】

（浜小学校）
♪広々青いちぬの海辺　さわやかな朝風が吹く
（太田小学校）
♪希望大きな学び舎よ　ちぬの海から夢はこぶ
（春木小学校）
♪かもめ飛びこうちぬの海　さざ波青く寄すところ
（城北小学校）
♪夕日が映える　ちぬの海
（八木小学校）
♪ちぬの浦わに打ちよせる　不断の波こそ我が努力
（城東小学校）
♪ちぬの浦から　吹く風は　世界の夢をのせてくる
※その他　３校の歌詞にも採用されています。

【池・河川】

（山直南小学校）
♪牛滝川の この水は まごころ清く みがく水
（東葛城小学校）
♪津田の流れに　とぶほたる
（大宮小学校）
♪春木川 音なく流れ 木もれ日の たゆとうところ
（常盤小学校）
♪とどろきの水の流れも清くして　我らの心洗いつつ
（大芝小学校）
♪清く流るる　天の川
（八木小学校）
♪久米田の池の水青く　けがれなきこそ　我が心
※その他　３校の歌詞にも採用されています。

【葛城山】

（朝暘小学校）
♪とわに　ゆるがぬ　かつらぎの峰をのぞめ
（旭小学校）
♪明けそむよ　空むらさきに　葛城は清しい光
（天神山小学校）
♪輝く朝の陽がのぼる　葛城山を仰ぎつつ
（東葛城小学校）
♪葛城山の雪とけて　青葉のかおる学び舎よ
（城北小学校）
♪朝日がのぼる　葛城に
（常盤小学校）
♪遥かに見ゆる葛城の　峰に平和の日は昇る
※その他 ４校の歌詞にも採用されています。

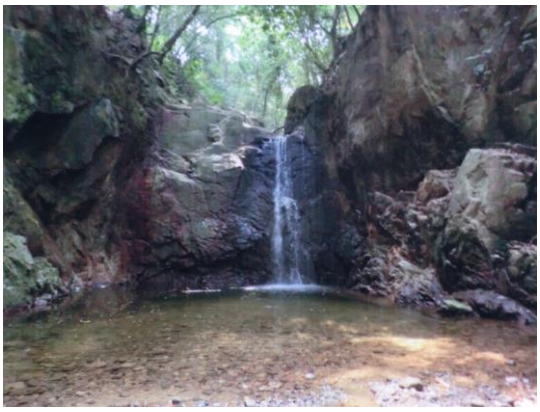
【神於山・赤山】

（修斉小学校）
♪神於の山の花みかん
（光明小学校）
♪赤山の松こみどりに　すくよかにのびゆく若木

【いずみの】

（東光小学校）
♪朝もやはれて　今　和泉野に太陽は昇る
（旭小学校）
♪和泉野の もゆる若草 はつらつの 力あふれ
（大宮小学校）
♪明けそめる いずみの野づら 山なみは 緑に映えて

【社寺】



（中央小学校）
♪岸城の宮の御鏡の 清き御影を仰ぎつつ
（修斉小学校）
♪意賀美の宮の 昇り滝 いのち清しい 滝の音

【岸和田城】

（中央小学校）
♪ちきりの城にみどり濃く 嵐に堪ふる松のごと
（浜小学校）
♪ゆたかなみどり ちきりの城
（東光小学校）
♪そびえる天守　松かげふかく
（新条小学校）
♪千亀利の城の　うるわしく

【遺跡・古墳】

（太田小学校）
♪弥生の遺跡に　歴史を語る
（八木北小学校）
♪八木の昔をしのばせる　弥生の遺跡のある土地に
（城東小学校）
♪緑にねむる　摩湯古墳

④空間特性

岸和田市は泉州の商工業の中核的な都市としての歴史を持ち、歴史的な建築物も数多く残っています。また、地形も変化に富んでおり、平地部、丘陵部、山地部がそれぞれ特徴的な空間を形成しています。空間利用を見ると以下のとおりになります。

地　域	主な土地利用	沿　革		特徴的地区
臨海部 （海浜地域）	工業・港湾	●遠浅、白砂青松の海岸 ●海水浴場	●大規模埋立等 （昭和 41 年～） ●阪南２区・人工干潟	●鉄工団地 ●木材コンビナート ●阪南１区、阪南２区 ●旧港
平地部 （市街地）	住宅・商業・農地 業務・流通 住工混在	●条里制による町割り ●綿畑（江戸時代）	●江戸時代の城下町 ●耕地整理（昭和 10 年頃） （岸和田駅・春木駅周辺） ●区画整理（昭和 48 年頃） （国道 26 号沿い）	●城周辺 ●紀州街道沿い ●熊野街道（小栗街道）沿い ●国道 26 号沿い （ロードサイド店）
丘陵部 （近郊地域） （中山間部）	果樹園・田畑 ため池 集落・宅地	●樹林地 ●900 箇所に及ぶため池があった	●圃場整備 ●集落 ●宅地造成 ●区画整理 （尾生久米田、岸和田丘陵）	●久米田池 ●ミカン畑、包近の桃畑 ●蜻蛉池公園 ●阿間河滝等の集落 ●神於山
山地部 （山間部）	山林・農地 国定公園	●山地	●金剛生駒紀泉国定公園 （平成８年）	●牛滝街道沿い ●塔原街道沿い ●山林 ●大威徳寺 ●ブナ林

建築物は市域全体に中低層のものが多く見受けられます。岸和田城（高さ 27m　石垣の高さも含む）が市域のランドマークとなっています。岸和田城周辺地区には天守閣（府内には大阪城と岸和田城の２箇所）、五風荘、自泉会館、岸城神社、杉江能楽堂、旧武家屋敷といった岸和田市の歴史的なストックである建築物が集中しています。紀州街道沿い等には伝統的様式の町家のまちなみが続いており、本瓦葺き、つし二階、袖うだつ、出格子の立面で構成されるまちなみ景観は、城下町の商業の中心地にふさわしい重厚さをもっています。岸和田駅前通商店街はだんじり祭のため、高いアーケードがかけられています。住宅は泉州に多く見られる伝統的な「しころ葺き」の屋根形式のものが特徴です。

道路は、関西国際空港開港（平成６年）とともに高速道路を主として飛躍的に整備が進みました。岸和田市の海沿いに阪神高速湾岸線（阪神高速道路４号湾岸線）、山沿いに阪和自動車道（近畿自動車道）が整備されました。また、その間に位置する整備済の堺阪南線（府道 204 号）、第２阪和国道（現国道 26 号）、大阪外環状線（国道 170 号）により交通利便性が増しています。

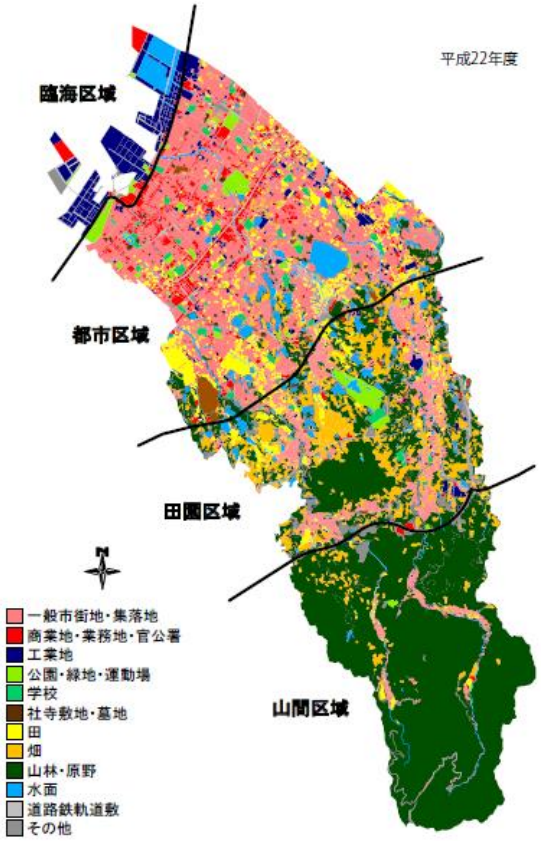
公園については、平地部の中央公園や丘陵部の蜻蛉池公園などは岸和田市を代表する公園であり、市民活動の拠点や憩いの場として愛されています。

臨海部においては、鉄工団地、木材コンビナート地区、岸和田旧港再開発地区などの大規模な埋立事業・開発が手がけられ、阪南２区では、人や環境にやさしい魅力あるまちづくりが進んでいます。

丘陵部においては、神於山は里山として愛され、市民、事業者、行政などが一体となって保全活動を行っています。また、岸和田丘陵地区では、地形条件や交通アクセス・営農状況を踏まえながら、「都市整備エリア（住宅地・商業地・業務地）」「農整備エリア（農空間）」「自然活用エリア」と大きく３つのゾーンに分け、まちづくりを進めています。「道の駅 愛彩ランド」は、岸和田らしさを内外の人々に伝える交流の拠点としてにぎわいを見せています。

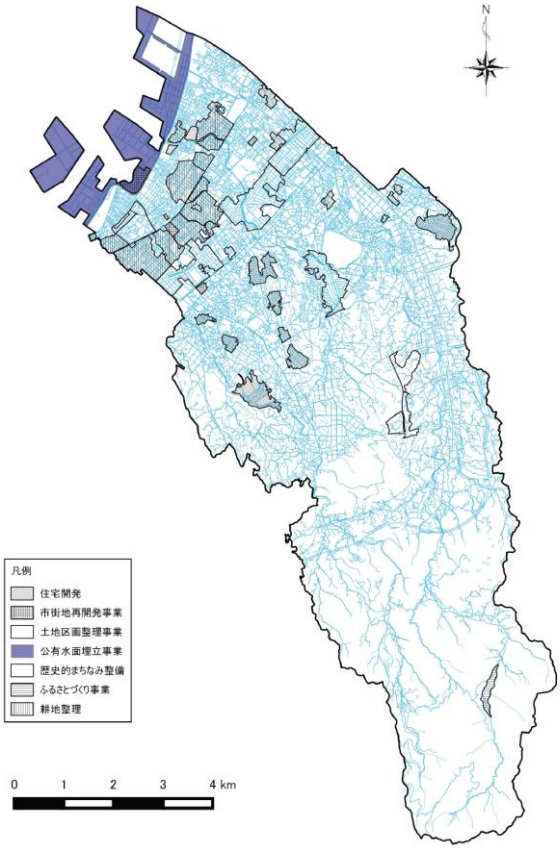
山間部においては、津田川上流部にはシイの自然林が、牛滝川上流部には牛滝山大威徳寺周辺の紅葉が名所であるとともに重要文化財である多宝塔、カシの自然林が残されています。また、「牛滝温泉森やかの郷」は、季節の移ろいによって変わる自然の表情が見られる観光拠点として、にぎわいを見せています。

●土地利用現況図



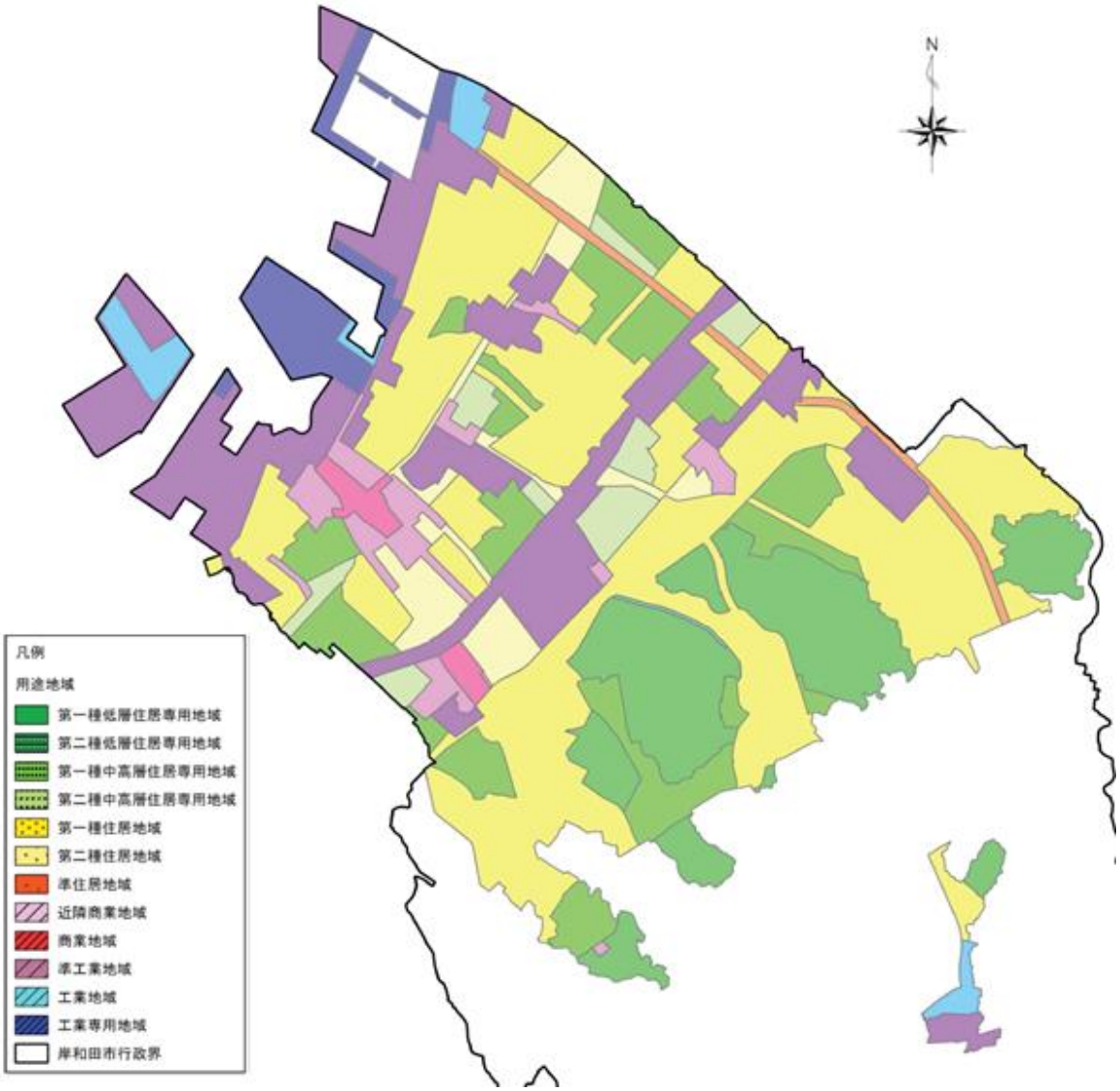
●土地利用の方向性（まちづくりゾーン）

●市街地整備状況



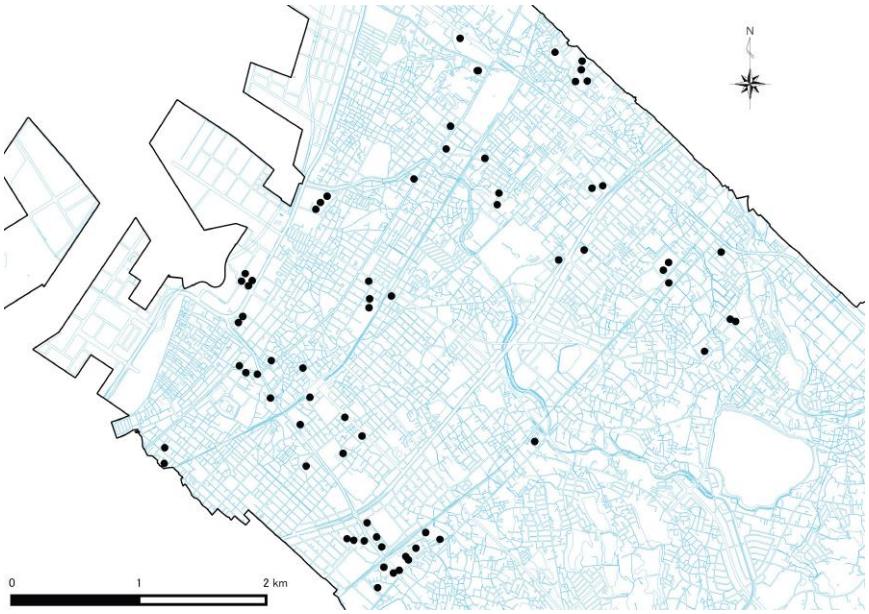
●多彩な魅力と活力を備えたまちづくり方針

●用途地域図



平成 28 年 4 月現在

●高層建築物（９階以上）の状況



平成 25 年 4 月現在